

平成4年度 BELCA 賞 ベストリフォーム・ビルディング部門 表彰作品

函館ヒストリープラザ

所在地 函館市末広町
用途 倉庫・多目的ホール等
竣工年度 明治時代末期
改修年度 1989年
所有者 金森商船(株)
設計者 (株)北海道岡田新一
設計事務所
施工者 清水建設(株)



【審査評】 設計者岡田新一氏は、昭和52年、自治省よりの委託研究を受け函館市を詳細に調査し、「地方都市の個性と魅力——望ましい定住環境を求めて」という報告書を作成している。この報告書の中で、港を擁するハーバーフロントゾーン函館市西部地区の歴史的な景観や建築物の価値を見直すこと、更に都市の特性や経済規模に応じた施設づくりをすべきであることを具体的に提案している。

函館ヒストリープラザはこの提案の延長線上に位置づけられており、明治40年の大火後の明治末期に再建された。レンガ壁・木造小屋組の平屋建である金森倉庫のうち、3棟の概ね半分の面積を生活関連事業に転用し、ビアホール・多目的ホール・ショッピング街に再生し、市民を対象としただれもが親しめる交流の場づくりをターゲットにしたプロジェクトである。

倉庫のレンガ壁と木造小屋組は視覚的には堅牢なものであったが、綿密な調査・診断を行い、その結果、レンガ造耐力壁の隅部に鉄骨の火打を補強すると共に、内外周壁にレンガ壁転倒防止の補強プレートを設けている。100年近くも経ったとは思えないダイナミックに生き続ける木造小屋組と柱は、補強することなく構造強度を保たせている。

このプラザは、明治以来の風雪に耐え、親しまれてきた外観、重厚で風情のあるレンガのテクスチャーや豊かで素朴な木造小屋組が織りなす風格のある古い空間を継承し、そこに照明や扉やサインなどの新たな要素を白い装置として対比的に付加し、空間を異化することなく、新たな都市の財産をつくりだしている。更に、新たな生命を与えられ、人々の交流の場として蘇ったこの建物が、都市を再構築する強力なインパクトにもなっている。即ち、根づき始めている市民の草の根運動としてのロフト文化と相まって、この魅力ある施設が点から線、線から面への連繫することによって、函館市西部地区が目標とするウォーターフロントに相応しい都市に変貌することを予感させていることである。このように、建築の歴史的価値の保存と新しい機能による再生は、建築主・設計者・施工者の三位一体によるものであり、その事業の成功は高く評価できる。